

1 本年度の重点教育目標

まなびあう子 ～ 主体的に学びに向かい、学びの楽しさを実感できる教育活動の充実を図る

2 本年度の取組の重点

○確かな学力の育成 ○豊かな心の育成 ○健やかな体の育成 ○特別支援教育の充実  
○危機管理の徹底 ○教育環境の整備・充実 ○ICTの効果的な活用 ○不登校への対応 ○働き方改革の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		観点	改善の方策	自己評価 達成	確かな 評価	主な意見 (改善策など)
確かな学力	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組むことができたか	A	ICTを積極的かつ効果的に活用した授業づくりを推進していく。	A	A	「読み」「書き」もしっかりお願いいたします。
	基礎学力の保障とともに、言語能力及び表現力を高める教育活動を工夫していたか。	A	校内研修を中心に豊かな表現力を高める教育活動をより一層、展開する。	A	A	
豊かな心	道徳科を要として、全教育活動を通して、道徳性(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)の育成をすることができたか。	B	全教育活動を通じて道徳的実践力を育む指導方法の工夫改善に努める。	B	A	道徳の授業がなぜ必要なのか児童に周知していますか。
	「考える道徳」「議論する道徳」の授業を実施し、家庭や地域へ積極的に授業を公開し、相互連携を深めた取組をすることができたか。	A	児童一人一人の発達段階や特性に応じた指導を充実させる必要がある。	A	A	
健やかな体	望ましい生活習慣の定着に向けた取組を充実させることができたか。	A	「早寝・早起き・朝ご飯」「生活リズムチェックシート」を活用した生活習慣の確立を図る。	A	B	
	自ら進んで運動に取り組む等の授業改善を通しての体力の向上を図ることができたか。	A	体力づくり週間における取組を継続し、運動に親しむ習慣を育む指導の充実を図る。	A	A	
特別支援教育	特別支援教育や通級指導教室の良さと専門性を生かし、通常級を含め一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実が図れたか。	A	今後も、特別支援学級の担任及び通級指導教室の担当者や各学級担任との連携を密にする。	A	A	
	関係機関との連携を密にし、指導方法や校内体制の充実、適切な就学に向けた組織的・計画的な対応、不登校への対応などの支援体制の構築ができたか。	A	校内の支援体制を生かすとともに、子ども見守り相談課や函館市スクールカウンセラー等との更なる連携を図る。	A	A	
危機管理	「学校安全年間指導計画」を基にした安全管理を徹底が図れたか。	A	登下校時には、町内会等と連携しながら児童の安全確保に努める。	A	A	年1回、災害等の発生に備え町内会関係機関との訓練が必要だと思う。
	日常的に「報告・連絡・相談・確認」を徹底し、迅速かつ適切に組織として対応できたか。	A	定期的にも臨時的にも情報交流の機会を積極的に設けるよう努める。	B	A	
教育環境	コンパクトな学校づくりに向け、業務改善を組織的・計画的に・継続的にし、子どもと向き合う時間の確保と教育の質の向上が図れたか。	A	学校行事や日常的業務等の精選、効率化及び内容の縮小等により、業務改善を推進していく。	A	A	
	「地域とともにある学校づくり」を目指し、CSを核として幼保・中・保護者・地域との連携した教育活動の向上を図ることができたか。	A	第2回遊防祭や幼保との活動等、様々な取組を推進・充実させながら教育活動を展開していく。	A	A	
ICT活用	授業における一人一台端末の効果的な活用を進めることができたか。	B	函館市ICTサポーターの協力を得ながらデジタルドリルの活用等、授業における端末の効果的な活用を図っていく。	A	A	
	一人一台端末を活用し、不測の事態下等においても学びを保障する取組を推進することができたか。	A	不測の事態に備え、引き続き、児童の発達段階に応じた持ち帰りの整備に、確実に取り組む。	A	A	
不登校	「未然防止」「初期対応」「自立支援」の徹底を図ることができたか。	A	初期対応を大切にし、情報共有をしながら、学級担任だけでなくチームとして対応するよう努める。	A	A	不登校の内容は各々違うと思いますが、民生委員への協力も必要と思う。
	休みがちな児童に対する対策を明確にし、確実に実行することができたか。	A	関係機関と連携するとともに、校内のサポート委員会における話し合いを充実させていく。	A	A	
働き方改革推進	全教職員の共通理解の下、「勤務時間」を意識した働き方を進め、職員一人一人の意識改革を推進する。	A	業務の効率化の推進と教育活動の充実を一体として捉えながらより一層の意識改革を図っていく。	A	A	教員の「働き方改革」難しいですね。
	会議資料のペーパーレス化やスケジュール管理のオンライン化等、校務処理の負担軽減を図る。	A	引き続き会議のペーパーレス化や校務支援システムの効果的な活用を推進するとともに、AIを積極的かつ効果的に活用することで校務処理の負担軽減を図る。	A	A	

■ 自己評価達成状況

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性よいため、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。